

総義歯学を中心に
～BPS デンチャーの経験から願みる補綴臨床～

(社) 愛知県歯科技工士会 守山支部
伊佐次厚司

「いやあ～、やっぱりデンチャーは難しいね・・・」という会話をしたり、聞いたりしたことはありませんか？ では、一体なにが難しいのでしょうか、また難しくさせているのでしょうか？

表題のBPSは、Ivoclar Vivadent社が長年にわたりヨーロッパの歯科大学、臨床医と共に構築した補綴システムです。製作コンセプトと材料の統一化を図り、システムとして各ステップを順次クリアする事で、能率良く生体機能に合わせて補綴物を製作することができる方法です。現在ではヨーロッパのみならず、アメリカの歯科大学23校で教育課程として取り入れられています。

2003年よりBPSのガイドラインとコンセプトを主体として臨床技工をしています。その中で、それぞれの工程に対してどのような知識と技術が必要とされているのか、そして、補綴物を作るにあたって何がコントロール出来て、コントロールできないか、何をコントロールしなければいけないか、どこまでならコントロール出来るか・・・、デンチャーを作るのに「本当に必要」な知識は？ そんなことを考えながら日々の臨床生活を過ごしています。

今回は、BPSを中心に私なりに思う義歯製作を述べてみたいと思います。

【略歴】

平成 3年3月	私立愛知学院大学歯科技工専門学校本科卒業
平成 5年3月	私立愛知学院大学歯科技工専門学校専修科卒業
平成 5年4月	愛知医科大学病院歯科口腔外科勤務
平成15年8月8日	(社) 日本歯科技工士会 日技認定講師 第174号 (社) 日本歯科技工学会 認定士 登録番号00340